第 32 回北九州市 PCB 処理監視会議 議事録

1 開催日時 平成 26 年 7 月 23 日（水）14：00～16：05

2 開催場所 若松市民館 小ホール

3 会議次第

- (1) 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について
- (2) PCB 廃棄物処理の見直しについて
- (3) その他

4 出席者

(1) 委員

浅岡 佐知夫	座長	是永 逸生	委員
清田 高德	委員	河井 一明	委員
吉永 耕二	委員	大庭 卓朗	委員
大石 紀代子	委員	嶋津 元彦	委員
津田 潔	委員	成田 裕美子	委員
古野 和彦	委員		

(2) 日本環境安全事業株式会社

事業部長	東 幸毅
事業部次長兼事業企画課長	山本 郷史
事業部安全操業課上席調査役	吉崎 仁志
北九州事業所長	氏本 泰弘
北九州事業所副所長	入江 隆司
北九州事業所総務課長	土田 哲司
北九州事業所運転管理課長	佐藤 淳
北九州事業所営業課長	高橋 隆

(3) 関係行政機関

環境省産業廃棄物課課長補佐	中野 哲哉
北九州西労働基準監督署安全衛生課長	石橋 一由
若松海上保安部警備救難課長	幸田 守十
福岡県環境部廃棄物対策課課長補佐	前原 弘和

北九州市

環境局理事	諫山 修
環境局環境監視部長	青柳 祐治
環境局環境保全課長	作花 哲朗
環境局 PCB 処理対策担当課長（監視指導課長）	二宮 正巳

若松区次長
産業経済局水産課長
港湾空港局計画課長
消防局警防課長

黒野 まゆみ
中村 聖
牛島 慎一郎
松本 裕二

(4) 事務局（北九州市）

環境局産業廃棄物対策室長

井上 雄祐

5 議事録

○事務局

定刻となりましたので、第 32 回北九州市 PCB 処理監視会議を開会いたします。

本日ご出席の委員につきまして、大石委員と是永委員が遅れて到着ということでお聞きしてございます。

まず初めに、お手元の資料を確認させていただきます。1 枚目に「第 32 回北九州市 PCB 処理監視会議議事次第」がございます。そのあと、資料 1-1「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について」、資料 1-2「北九州 PCB 廃棄物処理施設の環境モニタリング結果について」、資料 2-1 として「PCB 廃棄物処理の見直しに関する国の要請受入れ」、資料 2-2「PCB 廃棄物処理基本計画の変更について」、資料 2-3「PCB 廃棄物処理基本計画の変更を踏まえた対応」、資料 3 として「北九州市 PCB 処理監視会議設置要綱」でございます。次に参考資料として、1 点目「日本環境安全事業株式会社のパンフレット」、2 点目「他事業におけるトラブル事象について」、3 点目「第 31 回北九州市 PCB 処理監視会議議事要旨」、4 点目「北九州市 PCB 処理監視会議だより」、最後に「北九州市 PCB 処理監視会議委員名簿」でございます。お手元の資料について不足等ございましたら、事務局までお申しつけいただければと思います。

それでは開会にあたりまして、北九州市環境局理事の諫山より、市を代表して一言ご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○北九州市

皆さん、こんにちは。環境局理事の諫山です。本来ならば、環境局長が出席してご挨拶するところでございますが、所用のために会議に出席できないことから、私の方でご挨拶をさせていただきます。委員の皆様方には、日頃から本市環境行政に格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、PCB 処理監視会議は足かけ 12 年、32 回目の開催となります。今回は北九州での PCB 処理事業の処理の拡大、及び処理期限の延長に関する要請を受け入れたのち、初めての会議となります。そういったところから、本日の会議は定例の操業状況に加えまして、前回各委員の方々からいただきました PCB 処理の見直しを議題としております。

今回の受入れにあたりましては、市民をはじめ、関係団体、議会など

から様々な意見を頂戴しております。特に、地元の若松の大石会長さん、大庭会長さんには非常にお世話になりました。そういった意見を聞く中で、市民の総意としては、負の遺産を次世代に残さないよう、PCBを一日も早く根絶すべきというのが総論であったと思っております。しかしその一方では、処理の安全性、あるいは再延長に対する不安、疑問の声、あるいは地元の若松の負担感といった意見もございました。市としましても、国及び JESCO の方々と連携を図りながら、処理の安全性の確保、期間内の確実な処理に全力を上げていきたいと考えております。昭和 43 年にカネミ油症事件が発生しているのですが、50 年たった平成 30 年頃には、ある一定の処理の目途が立つのではないかと私の方としては思っております。

委員の方々には、今後もお負担をおかけしますが、地域の理解を得るためにはこの会議が非常に重要なものとなっております。ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。簡単ですが、ご挨拶とします。

○事務局

ここからの進行は座長にお渡しします。浅岡座長、よろしくお願ひします。

【議題 1 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について】

○座長

それでは本日の議事に入ります。諫山理事の方から紹介がありましたように、今日の議事は、1 が従来どおりの「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について」ですが、そのあと、2 番目として「PCB 廃棄物処理の見直しについて」ということになっております。まず 1 番目の議題である「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について」、日本環境安全事業、以後議事の中では JESCO と略させていただきますが、報告をお願いいたします。よろしくお願ひします。

○JESCO

JESCO 北九州事業所長の氏本でございます。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

お手元の資料 1-1 「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について」に沿ってご説明申し上げます。資料は、PCB 廃棄物の受入状況を 1 番に、2 番には PCB 廃棄物の処理状況ということで記載しております。

まず 1 番の受入状況は、詳細は 3 ページ目、別添に年表で示しております。本文の表 1 は、平成 16 年から平成 26 年 6 月末までの受入状況で、トランス、コンデンサ、安定器の総搬入台数、エリア別の台数という表示しております。

トランスについては、比較のために括弧内の数字が第 30 回監視会議、これは昨年 7 月開催して、そのときに平成 25 年 6 月末の数字を使っておりますので、ちょうど 12 か月前の数字ということで、1 年前との

比較という意味で記載しております。トランスにつきましては、ちょうど1年前に比べ、受入率が11ポイント上がって89%、総数で2,464台受け入れております。北九州市内の物につきましては、受入率が99.8%まで上がっておりまして、残すところ大型のトランスはあと1台という状況になりました。

2段目のコンデンサ類につきましては、対前年比で14ポイント上がって、89%の受入率で、総数で41,713台という数量になっております。北九州市内の物につきましては98%の受入率まで向上しておりまして、残すところあと60台程度という数字です。総数で2,939台受け入れております。

安定器につきましては、対前年総数で660トン強の、ここは、単位は台数ではなくキログラムになっておりますが、660トン強増えまして、トータルで1,653トンの受入れというような状況になっております。なお、受入率の算出は、JESCOの登録数量並びに試運転物の数量を母数としております。

2番目の処理状況についてですが、こちらの方は、詳細は別添5ページ目にありますPCB廃棄物の処理状況、表-1等をご参照いただければと思います。

まずトランスの処理状況ですが、平成25年度、大型トランスを73台処理しました。この中には車載型トランス22台も含んでおります。そして、中型・小型のトランスを210台処理して、合計283台ということで、ほぼ前年並みの処理を行っております。25年度は北九州エリア内の車載トランスの処理をすべて終了しました。それから本文1ページに書いてありますように、2トン未満の中型・小型トランスにつきましては、登録機器が残り少なくなってまいりまして、保管事業者への働きかけを強化しておりまして、平成26年度中にはすべての処理を完了する予定です。一方、大型トランスのうち4トン以上が依然として多く残っておりまして、こちらにつきましては施設の有効活用を行って、早期に処理を進める予定にしております。

次に、コンデンサの処理状況です。25年度は7,404台の処理を行いました。1期の施設で1,804台、2期の施設で真空加熱分離装置を使いまして、5,600台を処理しております。26年度は、残っている登録機器、およそ5,100台の処理を計画しております。

続きまして、安定器等・汚染物の処理状況でございます。2ページの表2には安定器の他に小型電気機器、それから汚染物でありますウエス・感圧紙・汚泥他ということで抜き出して列記しております。こちらは見てくださいますと、25年度は積極的な営業努力によって保管事業者の処理に対する理解が進みということで、特に前年対比で120トンほど伸びまして、安定器は568トンの処理を行うことができました。大幅に前年度を上回ることができました。同時に小型電気機器、汚染物等につきましても前年度と同様の量を処理しております。こういった安定器を大量に処理できたわけですけれども、プラズマ溶解炉の設備の能力を十分に発揮させるために溶融稼働日数の増加、あるいは下に書いてあり

ますように、前処理体制の強化などを実施しております。特に 25 年度につきましては、プラズマ溶解の前処理、こういった作業を行う人員を 9 名から 16 名に増員し、それまで平日のみの前処理作業でしたけれども、土曜日、日曜日を含む 24 時間体制でそういった処理がスムーズに行えるような工夫をしております。以上です。

○座長

議題 1 に関しては、説明が終えてから質疑応答に入りたいと思いますので、続きまして資料 1-2 に基づいて、北九州 PCB 廃棄物処理施設の環境モニタリング結果について、説明をお願いします。

○JESCO

JESCO の副所長をしております入江と申します。まず、JESCO の環境モニタリングの結果について、ご報告したいと思います。資料 1-2 をご覧いただきたいと思います。資料 1-2 の 1 ページの上段が JESCO ということで、JESCO のご説明をさせていただきます。前回の監視会議でご報告した以降の環境モニタリング結果についてご報告をさせていただきます。詳細は 2 ページ以降の別添 1 に記載させていただいております。資料 1-2 の 1 ページには総括として記載させていただいております。

まず、周辺環境につきましては、大気、水質、地下水、土壌、底質につきまして環境基準等に適合していたという状況です。生物につきましては、前年と同じぐらいの数値で、大きな変化は見られなかったということでございます。2 番目の排出源につきましては、PCB 等すべて協定値等に適合していたという状況です。その詳細につきましては 2 ページ以降をご覧いただきたいと思います。2 ページから 4 ページにかけて周辺環境のデータということで、前回の監視会議以降の測定結果につきましては黄色でマーカーをさせていただいております。先ほど申しましたように、すべて環境基準等に適合しているという状況です。

排出源につきましては 5 ページ以降、1 期、2 期に分けて測定の結果を記載させていただいております。同じく、前回の監視会議以降の測定結果について黄色のマーカーで記載をさせていただいております。簡単ではございますが、日本環境安全事業の方の環境モニタリング結果について、ご報告を終わりたいと思います。

○北九州市

引き続きまして、北九州市の方で実施した環境モニタリング結果につきまして、資料を用いてご報告させていただきます。同じく資料 1-2 です。ページをめくっていただいて、18 ページをご覧ください。18 ページから本市のモニタリング結果をお示ししております。

まず、周辺環境の大気につきましては、PCB、ダイオキシン、ベンゼン、これらの項目いずれも環境基準に適合していたということです。ちなみに測定地点としては、こちらの若松市民会館の屋上ということでございます。19 ページ、水質、底質、土壌の測定結果をお示ししており

ます。こちらにつきましても PCB、ダイオキシン類とも環境基準に適合しておりました。

20 ページをご覧ください。次に排出源におけるモニタリング結果でございます。JESCO から排出されております排出ガスにつきましては、PCB、ダイオキシン類、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、ばいじん、いずれの項目につきましても協定値に適合しておりました。

21 ページをご覧ください。公共下水道の排出水につきましては、PCB 類は基準に適合していたということです。その下の表ですが、雨水排水につきましても PCB、ダイオキシン類とも基準に適合していたところでございます。以上でございます。

○座長

ありがとうございました。2 番目の説明に関して、確認だけさせていただきたいのですが、今回の資料が JESCO さんと市の環境局で共同の資料になっていますが、これは初めてじゃないんですか。従来は別々の対応で、その結果を突き合わせるという話になっていたと思いますが、その対応の仕方の変更というのは何か説明がありますか。今後はこの形式で？

○北九州市

ただいま座長にご指摘いただいたとおり、JESCO の方で事業者として行っているモニタリングの結果と市の結果を突き合わせていく、それが基本的な考えでして、それについては今後も変更はございません。その点は資料 1-2 という表の 1 枚の 1 ページ目と書かれている紙のところで、その対比をわかりやすく説明をしたという、説明の工夫を今回したと、そういったことでございますので、内容については今後とも変更はございません。

○座長

そうすると今後この形式で、突き合わせ結果をもって議事説明内容とするということですね。

今の議題 1 の説明に関して質疑応答をお願いいたします。どなたか意見はございませんか。

○委員

ただいま PCB 廃棄物の受入れと処理状況について報告がございました。お尋ねしたいことがあります。1 番目は、トランス、コンデンサ、安定器などの在庫管理の責任者はどなたですか。2 番目は、格納庫は整理整頓されていますか。今後のために格納庫の拡張は考えられていますか。この 3 件、お願いします。

○座長

JESCO の方から説明をお願いいたします。

○JESCO

1点目は、在庫管理の責任者はだれかということですね。それは JESCO の施設内に入った処理対象物の在庫管理ということでございますね。一応、事業所内にありますものにつきましては事業所長の責任というふうに理解しております。ただ、対象物に対する法規等でそれぞれ専任の責任者等も必要でございますので、適切に配置をしております。2点目の質問は格納庫…。

○委員

整理整頓です。トランスはここに置きますよ、いろいろありますね。整理はどうなっているか。

○JESCO

施設内は基本的に置き場所を決めまして、適切な管理を維持しております。定期的あるいは非定期的に消防の立入りとかも受けておりまして、そういった確認をしていただいております。

3点目が今後拡大する見通しがあるのかということで、特に予定はしておりません。

○委員

他所から来ても間に合うわけですね、今の広さ、格納庫で。

○JESCO

はい。これからの計画としまして他地区からの搬入というものがありますが、入れたものは順次処理していくと。一応、処理を済ませて manifests を発行するための処理期限というものが定まっておりますので、そういった滞留時間の中でどんどん処理していくという計画でございます。

○委員

わかりました。ありがとうございました。

○JESCO

補足させていただきます。事業所内での保管につきましては法律できちんと決められておりまして、処理能力の2週間分しか保管できないということで、これはちゃんと環境局からチェックを受けながら保管量も適正にやっているという状況です。保管の状況につきましては、先ほど所長の方から言いましたように、行政機関からのチェックも当然ありますし、我々はそれ以上にきちんとチェックをしているという状況です。

○座長

今の質問に関連して、具体的には上限いくらの量になりますか。保管量の上限は？

○JESCO

PCB の処理能力ということですから、そのまま算定は非常に難しいのですが、処理業の許可をいただくときに、この容量で許可を出すということで、スペースをきちんとそのときに定められております。ですから、スペースからいくと、実際の数量よりも事実上は少ない、能力に対してかなり少ない状況にはなっています。

○座長

先ほどの質問の内容というのは、上限量の何%ぐらいで推移していますかという意味もあるんじゃないかと思うんです。保存量が適切に管理されていますかと。モニタリングされているというのか、システムは確立されていますねという、確認の意味の質問だと思います。

○JESCO

操業管理をシステム化していますので、施設が処理をする能力に対してきちんとそれ以上いかないようにということで、管理はされています。

○座長

よろしいですか。他の委員の方。

○委員

せっかくですのお伺いしたいのですが、もし中で事故が起こった場合、ストップするということは今までままあったことですが、そのときの保管量というか、直前まで便が来て、受け入れざるを得ないところまで来ていると。こっちは2週間分入れていると。そういうときのマニュアルというか対応はどういうふうにするかはきちんと決めていらっしゃるんですよね？

○JESCO

当然ながら事故が起こって施設が動かないというときには、営業サイドからきちんと保管事業者に施設への受入れを待ってくださいということは、事前にきちんとご連絡をさせてもらっています。通常的能力に対してかなり余裕を持った保管スペースがありますので、実際上はそんなに能力を超えて物が入るということにはなってはおりません。

○委員

港に着いてしまって、それはどうするんですか、そのときの受入体制は？

○JESCO

突発の場合にどうしても物を入れられないといけないという場合には、当然ながら余裕のスペースはきちんと確保はされておりますので、その分はどうしても受け入れざるを得ない分は受け入れて、保管スペースにき

ちんと確保するということでは対応しております。

○座長

よろしいですか。対応するというか、今の質問は、非常時の場合ですから、心積もりじゃなくて、マニュアルができていますかという質問だと思うので、こうすると、一時的にも規制量を超える状態になっても安全に管理できるようなマニュアルになっているとか、そういう説明をしていただかないと、通常の規制が、例えば、そういうトラブルが起ってもいいように 50%の規制とか、そういう話になってないとおかしいんじゃないのでしょうかという質問なんです。

○JESCO

先ほど操業管理システムのお話をしましたけれども、かなり余裕を持った受入れということではしております。それはマニュアル上もきちんと管理がされているということでございます。

○座長

他にございませんか。

○委員

PCB の処理状況についてお尋ねしたいんですが、北九州、福岡県は平成 26 年に入り非常にポイントが進みまして、99 数%までポイントが上がっている状況であります。福岡県以外 17 県をトータルしますと、26 年度に完了する可能性があるや否や、そここのところもちょっと尋ねたいと思いますし、処理状況を上げるために体制を強化するというようなことですが、従業員の健康状態も十分配慮されまして、その体制もできているかどうか、ちょっとお尋ねしたいです。

○JESCO

まず、26 年度に完了する見通しがあるやなしやということですが、先ほど申し上げましたように、車載型のトランスにつきましては 25 年度に北九州エリア分を終了しております。それから、1 ページにも書いておりますように、2 トン未満の中型・小型につきましては 26 年度中にすべて処理を完了できる予定であります。できるだけ期限内に早期処理を目指すという方向で運転の方は計画して、処理を進めている状況です。

体制強化等に伴う労働負荷が心配ではないかというご質問だったかと思うんですけれども、一応、定期的に作業者の健康状態、血中 PCB 濃度の測定、ダイオキシン濃度の測定等を必要な方々については必要な測定等を行い、健康被害が発生しないような管理を徹底して行っております。労働負荷につきましては、今とっておりますシフトが通常の 4 直 3 交代体制ですので、24 時間体制で 3 交代をやるという職場と同等のシフトを組んでおりますので、そういった他の職種、仕事に比べて過

大な負荷がかかるということではないと理解しております。

○座長

いいですか。この表1について、トランスとコンデンサ類については受入率の変化というかたちで、明快に示されているんですけども、安定器に関して受入率の表示がないんですけども、これは何か理由があるんですか。

○JESCO

今、営業を中心に保管者の掘り起こし、処理の促進を図っております。安定器につきましては、JESCOの登録数量及び試運転数量等を母数にした受入率という表示が非常に難しゅうございまして、できれば次回の会合あたりからそういった表示ができるように努めたいと思っております。

○座長

他に何かありますか。

○委員

先ほどの3交代制のところと関連するんですけども、24時間体制で動いている作業というのは、プラズマの溶融の前処理以外にどのような作業が今行われているのでしょうか。

○JESCO

JESCO 運転管理課の佐藤でございます。現場を担当しておりますので、私の方からご説明させていただきます。

当社の設備、一度立ち上げてしまうと、連続運転を基本としますので、受入れとか払出し関係を除くほとんどの処理関係は24時間体制で、人間は8時間ごとのシフトを組んで、機械の方は24時間連続で動かすと、基本的にそういうことで進めております。

○委員

プラズマの溶融炉も24時間で動いているということによろしいですか。

○JESCO

はい。溶融炉もいったん立ち上げますと、現時点ですと、30日ぐらいの連続溶融を行って、それから一旦停止するというようなかたちで、24時間運転を継続しております。

○委員

質問です。今回、延長するにあたって、人員増強というのはされたんでしょうか。中の施設の作業の方たちですね。従事する方たちの人員増

強というのはされたのかどうかをお願いします。

○JESCO

期限延長ということで、当初の計画は27年3月までだったと思うんですけど、27年度にどうするかという議論は今から始まるところでございます。26年度につきましては、25年度同等の人員で運転処理を行っております。

○座長

よろしいですか。現在はまだ期限内の話ですので。

もう一つ、表1の福岡県内の受入率の変化で、これは伸び悩んでいるんじゃないかと思うのですが、87が90、90が92というかたちになっていますよね。これを足していくと1年間では終わる見込みがないんじゃないかと思うんですけど、これは何か事情があるんでしょうかという質問です。

○JESCO

17県も同じ状況だと思うんですけど、今まさに掘り起こし作業も含めて処理の誘導をお願いしているという感じですか。これはJESCOと行政の方が一緒になってやらないと、あとわずかの部分は非常に難しい部分があるのだらうと思います。我々の営業も一生懸命やっておりますけれども、なかなかスピーディにいけない部分がこういう結果だと思います。

○座長

他にありませんか。なければ、議題1を終了して、次の議題、議題2「PCB廃棄物処理の見直しについて」に移ります。資料2-1に基づいて、「PCB廃棄物処理の見直しに関する国の要請受入れ」について、市の方から説明をお願いいたします。

【議題2 PCB廃棄物処理の見直しについて】

○北九州市

私、産業廃棄物対策室長の方からご説明申し上げます。資料2-1のパワーポイントの横になっている資料をご覧いただければと思います。前回の監視会議の中でご意見を賜ったそののちの状況でございます。

4月23日に国に対して要請を受け入れるといった話に至った経緯を示しています。その中では、この監視会議の中でご意見を賜ったことも含めまして、市民・議会それぞれから数多くのご意見を賜ってまいりました。その中で、この資料の③市民・議会の意見というものを真摯に受け止めまして、それを27項目の条件というかたちで取りまとめいたしました。これに則って、国の責任と覚悟を問うべく、北橋市長が石原環境大臣に受入条件書を直接提示してございます。その提示した条件書は

別添 1、資料 4 ページからの資料で、これを提示したということです。

その内容は、大きく四つの柱、処理の安全性、期間内での確実な処理、地域の理解、取組みの確実性の担保、こういった四つの柱、計 27 項目でございます。こういった条件を受け入れるのであれば、この要請自体については誠に遺憾であるとしつつも、市として国の判断というものを問うたということでございます。

それに対する石原環境大臣の回答は 1 ページ④に書いています。市民や議会の想いを集約したものとして重く受け止め、国の責任と覚悟の下、すべての条件を承諾し、万全を尽くして対応するということ。そして、安全かつ期間内に処理が完了するよう、北九州市と二人三脚で取り組んでいきたいので、北九州市のご協力をぜひともお願いをしたいと。こういった話を受けまして、北橋市長の決断として、国の決意に応えるため要請を受け入れることとしたのが、今年の 4 月 23 日、ちょうど 3 か月前でございました。

こういったものを受けまして、市としましては、市民の安全安心・理解が確保されるよう、PCB 廃棄物を一日も早く安全に処理を進めていくよう最善を尽くしていくと。こういったことでもございまして、今、27 項目の条件、その履行状況については、国または国のもとで事業を行っております JESCO と市の方で鋭意協議を行っている最中でございます。本日、国または JESCO の方からその条件の進捗状況についても説明・報告をしてもらおうと考えています。

また、市の対応ですが、資料 9 ページをお開きいただけますでしょうか。別添 2 です。本市としても PCB 廃棄物の処理をしっかりと推進することで、市民の安全安心が確保されるよう最善を尽くしていきたい。こういった旨を市長自らが表明して、ここに掲げてございます項目、例えば市内にあります残り数%となっている PCB 廃棄物を今年度中、期限内に処理を完了させる。そのためにしっかりと取り組んでいく、とか、市内の安全対策を強化していく。またこの監視会議が主体になってくると思いますが、市民や専門家と連携した PCB 処理監視体制を強化していく。そして広域協議会等、これは北九州事業である 17 県の自治体と連携している協議会ですが、こういったものを活用して、他地域の取組みについてしっかりと進めていく。国または JESCO とともに施策取組みをしっかりと協議しつつ進めていったり、地元地域での一層のリスク・コミュニケーションを推進していく。そしてこれを担うための市の担当部署、我々の体制を強化して臨んでいく。こういったものを市としても責任を持って対応していくということでございます。

最後に、市の取組みの進捗状況の一つとして、10 ページをお開きいただけますでしょうか。別添 3 という資料です。今回、要請の受入れを行ったわけですが、そういった中で、処理を安全にかつ一日でも早く終わらせるためには我々北九州市のみならず、関係する自治体、そういった取組みが不可欠と考えています。こういったことから、今回要請を受け入れた東京以西の 31 都府県・政令市に対しまして、北九州市長の北橋の名前で、そういった取組みをしっかりと進めてほしいといった要請を

7月の頭に行っています。こういったかたちで、関係自治体、国、JESCOとも連携協議しながらしっかり進めていきたいと思っております。以上でございます。

○座長

それを受けるかたちでの説明になるかと思いますが、環境省の産廃課の方からご説明をお願いしたいと思います。

○環境省

皆さん、こんにちは。環境省の産業廃棄物課の中野と申します。本来であれば、産業廃棄物課長が出席させていただくところですが、本日所用のため欠席させていただきました。私の方からは、資料2-2を使いながらご説明させていただきます。

まずは、ただいま北九州市さんの方からご説明がありましたとおり、4月23日、北九州市さんから提示された受入条件につきまして、石原環境大臣の方からすべて承諾させていただきますというようなお返事を申し上げたところでございます。その後、6月6日にPCB廃棄物処理基本計画、国が定める計画でございますが、こちらを変更させていただいてございまして、その中では、北九州市さんからいただいた受入条件の内容も盛り込ませていただいているところで、今後この基本計画に沿ってしっかりとPCB廃棄物、これを早期に終わらせるための取組みを進めてまいりたいと考えているところでございます。今申し上げた考え方につきましては、先日、事務次官に鈴木が就任したんですが、先月、鈴木が北九州市を訪問させていただきました。北九州市長、議会の皆様にもお話を申し上げたところでございます。その中で、本日はその計画の内容をあらためてご説明させていただきます。計画変更にあたり、すでに実施させていただいた取組みの具体的な内容について、私の方から、一部につきましてはJESCOの方からもご報告申し上げたいと存じます。

それでは資料2-2をご覧ください。1ページ目、横書きになってございますが、上の四角にはただいま私の方からも申し上げましたけれども、基本計画変更までのこれまでの経過を簡単に記載させていただいております。結果、6月6日に基本計画変更の告示をさせていただいたところでして、この基本計画の内容につきましては2ページと3ページに概要を書いてございます。基本計画の変更にあたりましては、北九州市さん、それ以外の地域の皆様からもいろいろご意見をいただいたところで、また特に北九州市さんにおかれましては、私どももこの会議でも皆様方のご意見をいただいたところもございまして、あるいは市民の皆様と直接ご意見を交換させていただく場もございまして、そういった諸々を踏まえて新たな計画というものをまとめさせていただいたところでございます。

2ページ目、左側のページの2番に変更の主な内容を概略ですが、書かせていただいております。一部、これまでも今後取り組ませていただく方向性として皆様方にもご説明申し上げ、ご意見を頂戴した部分もござ

いますが、まず 2 番の (1) は今後の処理体制です。ここは①高圧トランス・コンデンサ、安定器等・汚染物につきましては、皆様ご案内のとおり、JESCO での処理体制について規定しているところで、当然ながら安全操業が第一であるということと、一日でも早期に処理を終えるということを第一の考え方として、JESCO の 5 事業所の長所を生かして処理能力を相互に活用させていただくこととか、安定器・汚染物の処理につきましては北九州事業所、北海道事業所を活用させていただくということ。それから、処理の期間につきましては、計画的処理完了期限と事業終了準備期間を設けまして、残念ながらもともと 27 年 3 月と申し上げていた期間を延長せざるを得ない状況の計画となりましたが、最長でも平成 37 年度までに処理を完了させていただくということで、このイメージをしやすい図が、これまでもこちらをご覧いただいたかもしれませんが、3 ページに載せております JESCO の処理体制の図、処理期間に関する図でございます。

処理期間のところでは実線と点線の期間を設けていますが、この実線の期間が計画的処理完了期限と位置づけており、保管事業者が JESCO に対して処理委託を行って計画的に処理を行う期間とさせていただいております。さらに点線期間を事業終了準備期間と位置づけて、今後新たに生じます廃棄物とか現在処理が容易でないものを処理し、最終的な事業終了のための準備を行う、こういったものを勘案した期間と定めさせていただいているところでございます。

2 ページの真ん中、2 の (1) にお戻りいただきまして、PCB 廃棄物につきましては、JESCO で処理するもの以外に、②微量 PCB 汚染廃電気機器等、③低濃度 PCB 廃棄物といったものもでございます。こちらにつきましては JESCO ではなくて、民間の大臣が認定する無害化認定施設での処理業者とか、都道府県の特別管理産業廃棄物処理業の許可、こういったものを活用して処理体制を今後も維持継続していくというようなことを書かせていただいております。

(2) の主な取組みが、この体制で安全を第一に、一日も早く処理を終えるためにどのような取組みをしていくということを書いたかということを書いています。①が安全を第一とした JESCO における適切かつ確実な処理ということで、今後期間が延長するということもございしますので、その経年劣化を考慮して、長期的に設備を保全できるような計画をあらかじめ策定し、これに基づく設備の点検・補修・更新をきちんと国が資金的なものを支援しつつ、安全を確保して処理を進めていく、あるいは、日常的な工程改善をどんどん進めていくことで、処理の効率を上げていくということも今後取り組ませていただくということを計画に位置づけさせていただいております。

②の一日でも早い処理完了に向けた処理促進策ということで、処理期限の再延長はないということは再三申し上げておりますが、それに加えて、その処理期限を一日でも早く前倒しして処理を終わらせるということを第一の目標にしています。

そのために行っていく新たな取組みとして、一つは、この監視会議の

場でもいろいろご意見を頂戴したところではございますが、未処理の事業者を、都道府県のみならず、国、これは環境省、経済産業省もございますが、国、JESCO、電気保安関係の事業者などが協力する体制を築きまして、未処理の事業者をしっかりと掘り起こして、かつ、掘り起こされた未処理の事業者の持っているものを処理期間にきちんと処理をできるようにところまで指導等をしていくことを取り組むということ盛り込ませていただきました。さらには、処理費用の負担能力が低い方への支援策、あるいは逆に意図的に処理委託を行わない方への対策というものも検討していくということも盛り込ませていただいた次第です。

また JESCO ではない民間で処理をする微量 PCB 汚染廃電気機器等につきましては、現在の受け皿をさらに広げて処理のスピードアップを図れるような検討もしていくということを基本計画の中に位置づけさせていただいたところで。

これらの取り組みをすることで、現状のペースでいくと最大でも平成 49 年まで処理がかかるというような試算もさせていただいたところですが、それを何とか平成 37 年までには短縮させていただくというような計画とさせていただいたところで。

4 ページからは処理計画の全文をこちらに記載させていただいております。後ほどご覧いただければと存じます。こちらを 6 月 6 日に告示をさせていただいたところでございます。

それから、22 ページです。こちらからは私どもの取り組みについて関係する資料を載せさせていただきました。先ほど申し上げましたとおり、処理の安全確保と一日でも早い処理の完了に向けた取り組みをしていくということが、特に JESCO での処理体制での処理計画の大きな柱となっていますが、まず別添 3、22 ページからは、私どもから各都道府県、政令市の方に通知をした文書となっており、特に早期に処理を終えるために地方公共団体に取り組んでいただくべき、あるいは心づもりをしていただきたい点について、通知を発出したものでございます。

ポイントだけご説明させていただきます。この通知の 22 ページの真ん中、記書きから以降に大きく、1 番、基本計画の変更の趣旨と 2 番の留意事項というかたちで通達を出しております。まず、1 番の基本計画の変更と趣旨につきましては、23 ページの上の段落にありますとおり、今回基本計画の変更にあたっては、JESCO の処理施設が設置されている地元の地方公共団体、つまり北九州市など 5 地域ですが、こちらの負担が大きいことから再び各事業にかかる処理の期間を延長することはないということを地元にはきちんと約束をさせていただいているということがありますので、地元以外の都道府県市におかれても、この点をよく理解して、処理の一層の促進に取り組んでいただきたいということをまずは通達を出させていただいた上で、2 番の留意事項というところで (1) から (5) までの 5 項目についてさらに通知を出しております。こちらポイントだけをご説明いたしますと、まず (1) の JESCO を活用した処理体制については期間内の処理完了を一日でも早く達成するために国、都道府県、政令市、保管事業者などの関係者が最大限の努力を図

る必要があるということをお知らせして留意させていただいております。

(2) の早期処理完了のための取組みということにつきましては、23 ページの下から 5 行目に書いてございますが、掘り起こしに関して、こちらについて、都道府県市におかれては国と JESCO などの事業者などと協力して、必要な調査を行い、未処理業者の一覧表を作成し、きちんと指導していくという必要がありますよということをお知らせしてございます。24 ページ、(2) の続きの上の 3 行ですが、国としても都道府県市に協力をきちんとさせていただくために、都道府県市にいろいろな情報を提供したり、あるいは地方産業保安監督部など経済産業省との連絡体制の構築について、環境省としても必要な調整を行っていくということをお知らせしてございます。

(3) は都道府県市の広域協議会のことについて書いています。(4) が地元地方公共団体への協力についてということで、先ほど基本計画の主な内容の中の説明ではご説明しませんでした、基本計画の中には地元施設、JESCO の施設がある地元地方公共団体の皆様が我が国の PCB 廃棄物の処理に関して非常に重要な役割を果たしていただいているということがございまして、PCB 廃棄物を排出する側になっている都道府県市においても、その重要性をしっかりと認識をして、その施設が設置されている地元の自治体に最大限の交流・協力を行う必要があるということをお知らせにも書かせていただいているところで、それをあらためて周知させていただいたのが (4) です。

(5) については、6 月 6 日には国の PCB 廃棄物処理基本計画を変更させていただきましたが、PCB 廃棄物処理特別措置法の中では都道府県、一部の市においては国の基本計画の変更にあわせて都道府県が定める計画がございまして、こちらでも変更する必要があるということと、その際は、特に確実かつ早期の処理を完了するために掘り起こし調査に関することや期限内の処理の指導、施設の設置地元自治体への協力についてしっかりと都道府県の計画でも位置づけて、計画的な対策を取り組んでほしいということも各自治体に通知をさせていただいたところです。

最後 27 ページをご覧ください。その他の取組みとして、これまでの結果報告になりますが、別添 4 という資料では、PCB 処理料金の負担能力のない者への対策についてと書いてありますが、今年 4 月に特に処理能力の負担が低い方への支援策として、中小企業者等にこれまで行ってきた処理料金の負担軽減措置をこちらに書いてあるような拡大措置をとらせていただいたところです。具体的には、赤で書いてあるところが今回拡大させていただいたところで、法人につきましては従来、中小企業支援法に規定される中小企業者、その他従業員 100 名以下の学校法人、宗教法人、医療法人、社会福祉法人が対象になっていたのですが、それ以外に、例えば公益法人とか社団法人などありますが、そういった従業員 100 名以下の法人に対しても 7 割の軽減措置を拡大させていただいたことと、あわせて、これまで個人につきましては、解散または事業を廃止した事業者から PCB を継承して保管している個人の方だけを対象にしていたのですが、さらに料金負担能力が著しく低い方としてはその

他の、例えば破産した方とか貸した土地の使用人がいなくなってしまうて残った PCB 廃棄物をやむを得ず土地所有者の方が個人で保管するような事情があるような方々については、著しく処理料金の負担能力がない方ということで、こちらにつきましては、まず支援対象として拡大させていただいた上で、支援する額についても従来 7 割軽減だったところを 95%軽減するというような措置を講じさせていただいたところです。私からのご説明は以上です。

○座長

説明を続けさせていただきます。JESCO さんの方から説明をお願いします。

○JESCO

資料 2-3 につきまして、本社事業部次長の山本からご説明させていただきます。今、北九州市また国からご説明がございましたように、4 月に北九州市から国に対して提示された受入条件、また 6 月に国の方で改訂された国の PCB 廃棄物処理基本計画を踏まえて、JESCO の事業基本計画を 6 月に変更したところです。JESCO におきましては、この事業基本計画に基づき、また北九州市の受入条件を踏まえて、処理の安全性の確保を図りながら、今後安全かつ早期の処理を進めていく所存です。今回はすでに取り組を進めています施設の健全性の確保、トラブル防止及び災害対策、計画的な処理の推進についてということで、3 点についてご説明を申し上げます。

施設の健全性の確保についてです。これまで当社の施設では、日常的な点検、整備を主に実施してきているところですが、五つの事業所のうち操業開始の早い北九州事業所ですと、施設の稼働から 10 年程度が経っているということで、一部機器につきましては経年による劣化が見られるようになってきているところです。そういったところにつきましては、これまでも機器の更新等について対応を個別に実施してきたところですが、この 6 月に国の基本計画が改訂され、各事業所における処理期限の延長が決定されたところです。今後、全事業所において中長期的な機器の更新等を定めた長期保全計画を策定し、その計画に基づいて着実な保全措置を行っていかうと考えてございます。

施設の健全性の確保にあたって、保全のやり方としては、一定の周期で設備を更新したり、状態に応じて保全を行うといった予防的に事前にきちんと設備の機能を維持するために計画的に行う予防保全と、点検時に設備の機能の低下が見られた場合に行う事後保全が大きくあるわけですが、これまで基本的には予防保全というようなかたちで進めているところです。

今後、経年劣化によるトラブルを防止していくために、これまで実施している日常的な点検・整備とは別に、機器の更新、改修を計画的に行っていくために長期保全計画を定めて取り組みを進めることにしています。この計画の策定にあたりましては、これまで 10 年間操業する中で、

設備の点検・整備の記録やプラントメーカーや機器メーカーからの情報を踏まえて、作成をします。また、各事業所における長期保全の取組みを進めていくにあたって、全社的に一定のレベルできちんと効率的な更新ができるように本社に横断的に支援する専門の技術的なスタッフも配置をして進めております。

下の方に、計画、実行、評価、対策を図にしていますが、日常的な点検・整備、更新を行う中で、施設の状態をきちんと評価をし、毎年度見直しを行っていく中で進めていきたいと考えています。

ページをおめくりいただいて、こういった施設保全を行うにあたり、北九州事業所の施設保全の基本的な考え方を上の方に書いています。大きく分けると、安全にかかわる設備、また法定点検の対象になる設備とそれ以外の設備に分けています。安全にかかわる設備につきましては、設備の性能をきちんと維持していくために、これまで同様、予防保全の考え方に基づいて保全を実施していくことにしています。特に1期施設につきましては、稼働後10年を経過し、摩耗や疲労の蓄積による故障が増加するということが今後想定されることです。したがって、1期施設につきましては必要な設備の更新を今後速やかに着実に実施していきたいと考えています。

また、安全にかかわる設備以外につきましては、トランス・コンデンサの処理設備で申しますと、先ほども議題1でご説明をしたとおり、車載トランスについては処理が終わったり、また小型トランスについては処理がもうすぐ終わるということで、今後処理対象量の減少に伴いまして、施設の稼働率に余裕が生じると想定しているところです。したがって、こういった設備につきましては、設備の状態に応じた保全や予備品の確保などにより、機能の低下が発見された場合に保全を図っていく、そういったかたちで保全を実施していきたいと考えています。

また、安定器の処理設備であるプラズマ溶融設備等につきましては、他地域からの受入れも含め、今後も高い施設稼働率を維持する必要があるということから、引き続きこれまでどおり予防保全を図り、施設の健全性の確保を図っていくこととしています。下の方には、本年度計画している定期点検、機器更新について一覧でこういった機器を更新していくのかというのを例示で挙げています。

続きまして、二つ目のトラブル防止及び災害対策についてです。これまで JESCO においては、事故・トラブル撲滅に向けて、トラブルや改善措置に関する情報について全事業所で共有化をしていたり、またそういった事例につきましては、社内の各種会議、緊急時対応訓練、内部監査等を通じて水平展開を図っているところです。これらの取組みを進めることで全社における施設の操業に伴う事故・トラブル発生件数につきましては、右下の表にございますように、近年着実に減少をしているところです。

今後の対応ということで、JESCO におきましては、全事業所で過去に発生したすべてのトラブル、また改善対策の内容につきまして、今後本社の取りまとめのもと各事業所で再点検を行い、その結果について各事

業所で共有するとともに、その内容を踏まえてトラブルの予防対策を徹底していきたいと考えています。

北九州事業所での水平展開の事例につきましては、一部下の方に表で整理させていただいています。他事業所で生じておりますトラブルについて、それぞれ北九州事業所でどのような状況になっているのかということで、同様の設備がある場合には必要な対応をとったり、また他事業所で起こったトラブルであっても、北九州事業所ではすでに対策がとられている場合には、水平展開の必要がないというかたちで対応しているものを整理しているところです。また、トラブルの予防対策の徹底の一環として、安全管理体制についても再点検を行い、必要に応じて体制の強化を図ってまいりたいと考えています。

災害対策につきましては、今後の対応について12ページに記載しています。今後、想定最大の震度・津波の最大水位の見直しも含め、自然災害にかかる最新の科学的知見を踏まえ、必要に応じて追加措置を講じるということで考えています。国の防災計画等につきましては、環境省とJESCOの本社が連携をしたり、また都道府県が定める防災計画につきましては関係の地方公共団体とJESCOが連携をして、改訂の状況について適時きちんと把握をしていきたいと考えています。そういった防災計画の見直しがされて、最大水位の設定について、例えば上方修正された場合には、JESCOにおきましても速やかに検討を行い、必要な措置を講じてまいりたいと考えています。また、検討にあたっては有識者から構成される委員会等において審議をしつつ、適切な対応を図ってまいりたいと考えています。

続きまして、計画的な処理の推進についてです。ページをめくっていただきますと、大阪事業、豊田事業の営業体制の強化ということで表題を付けさせていただいています。今回の基本計画の変更により、北九州事業所において大阪事業地域、豊田事業地域に保管されている安定器等・汚染物の処理を行うことになったところです。この処理におきましては、今後北九州事業所で行うこととされている他事業地域に保管されているPCB廃棄物の処理の大半を占めるということから、速やかに処理ができるように今から準備を行う必要があるということで、7月1日に北九州事業所の営業課の分室ということで、近畿・東海エリアを担当する分室を大阪事業所に設置したところです。この分室におきましては、大阪事業地域、豊田事業地域の安定器等・汚染物の営業拠点として今後、関係自治体と連携を図りながら保管事業者への働きかけ、また今回この変更が生じたことを説明会などを開催することで周知をし、今後営業体制の強化を図ってまいりたいと考えております。

JESCOにおきまして、本日ご説明させていただいたような取組みを着実に進めることにより、一日でも早いPCBの安全かつ早期の処理を進めてまいりたいと考えている所存でございます。私の方からの説明は以上でございます。

○座長

市と環境省と JESCO さんの3者からそれぞれ PCB 廃棄物処理の見直しに関する点についてのご説明がございました。まず、全体的な話として何かご意見はございますか。

○委員

私の方から、今報告がありました。今後の計画的な処理の推進の項目であります。実はこの中に二つの事業所、大阪と豊田の事業所における処理についての運転その他うまくいってないというようなことではなかろうかと思うのですが。

私たち北九州の監視委員の人たちで、堺市にある大阪の処理工場と名古屋といますか豊田の処理工場に行きました。どちらもものすごく狭いんですね。大阪の場合はすぐ隣が下水処理場だったと思いますが、そういった施設の横にできているということ。それから豊田にあります工場は以前トヨタの自動車工場の建物の中、これはものすごく狭いんです。まちの中にあるというところで、ここの処理場はもうやめてどこかに広いところをつくるべきだと、私の気持ちは述べたところです。その点について JESCO としてはどういうふうに関心されているのでしょうか。

特に大阪については、あのままの状態では大変だと思いますし、豊田の処理場もああいったところに処理場をつくるなんて何ということかと。北九州では絶対にああいうところに処理場をつくることに市民は納得できるわけがないということをいまだに思っています。JESCO としてもその点もう一度検討し直していただいて、大阪、豊田で処理できないものを全部北九州に持って来るぞということだけは、我々は北九州の市民として若松の区民としても認められないということを感じておるところです。ぜひその点についてのご検討をしていただきたいと思います。

○座長

今の要望に対して JESCO ないしは環境省の方からコメントをいただきたいのですが。なぜかと言いますと、今の話は全体的な立地の話なので、これは JESCO 自身の事業だけじゃなくて、国の環境行政の指導の内容だったと思うんです。そういうことで、それを今後はどういうかたちで是正していくかという点を聞きたいのだと思います。ぜひともその点に関するコメントをお願いします。

○JESCO

まず、JESCO からお答えさせていただきます。今ご指摘のございましたとおり、豊田、大阪の敷地はこの北九州の事業所よりも狭くなっているところがございます。豊田の方では高層な建物を建ててということで、委員もご視察されて感じているところです。この車載トランス、前回の監視会議でも私の方からご説明させていただいたところですが、当初なかなか処理が困難を極めるところがあってということで、年間 27 台程

度しか処理ができなかったところがございますが、その車載トランスについても洗浄場所の拡充等を行いまして、昨年と言えば40数台まで処理の台数が伸びてきているところがございます。

豊田の事業所におきましては、いろんな工程改善や工夫ができないのかといったことを今後とも行い、なるべく豊田事業所でできる処理台数をしっかり上げていくことで、北九州事業所で一部の車載トランスについて処理することをお願いしているところですが、まず豊田事業所で処理すべきものはきちんと処理をしていくという考え方のもと、JESCOとしてなし得る技術的な努力を今後とも積み重ねてまいりたいと思っております。

○環境省

環境省です。今 JESCO も申し上げたところではありますけれども、そもそも JESCO の事業所の立地等につきましては、当時、関係自治体あるいは関係住民の皆さんともお話をさせていただきながら、現在の処理体制が構築されてきたところがございます。

今、その処理体制の能力を相互に最大限活用しながら、処理を早期に進めていくということを今回新たな計画として位置づけさせていただいたのですが、これは単純にその他、北九州事業所以外の事業所でもう処理ができないから北九州市さんをお願いということではなくて、今 JESCO が申し上げましたとおり、当然それぞれの事業所で必要な改造、あるいは処理工程の改善は今後も日々行いながら、まずはそれぞれの地域で処理できるものはきちんと処理した上で、それぞれさらに5事業所の能力を活用できる部分については活用しながら、全国的な取組みで処理の期間を最短にするという取組みをさせていただくということでございます。

まずは、そのためには今後も、今 JESCO も申し上げました、あるいは私どもの資料の中でも例えば資料2-2の2ページの中にも書いておりますが、安全な処理のところは日常的な工程改善とか設備の補修といったことも今後も引き続き行いながら、それぞれ5事業所が処理をきちんとさらにできるような体制をつくりつつ、どうしても広域的に能力を相互に活用すべきところについては活用しながら処理を進めてまいりたいと考えておるところでございます。

○委員

今、二つのところから意見といいますか、今後の取組み方、方針みたいなのが出されました。しかし、実際にもう始まって何年経っていますか。豊田の工場跡地の処理工場、大阪の工場。豊田の場合はビルで言えば7階か8階建てぐらいの高いビルの中でこのPCB関係の処理をするんですよ。こんなことは北九州に住む者から見れば、あんなところでやっていたら絶対に安全な作業はできないよと思って、その場でも私は言って帰ったんですけどね。どうやってするんですか。新しいところに工場を建て直して、そこで処理をしますということなんですか。あの場所で

するというんですか。どっちですか？

○環境省

あの場所です。

○委員

それは絶対だめですよ。絶対だめです。あのままやったらあと大変なことが起こるんじゃないかと思います。だから自分のところでできないものは全部北九州に持って行けみたいになるような気がしてるんです。私も若松に住んでもう70数年ですけども、絶対にそういうことは許さない。そういう気持ちがある、本当にわき上がってきたということでもあります。ぜひもう一度検討していただいて、新しい処理についての方針、方向を出して豊田、近畿地方の人たちも含めて、みんながそれならよかろうという方向でやっていただきたいと思います。

大阪もそうです。堺市のあの工場は大変ですよ。行ったときには何か大阪オリンピックの球場をつくるんだとか言って、だいぶ離れたところに空き地がありましたけど、あそこにつくったらどうですかという話をして帰りましたけれども、そういうことにはならなくて、あのままで来たようで、何とか大きな事故にならないように、なる前に処理工場をつくっていただきたいと思います。ぜひご検討いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員

処理の見直しということでご説明があったのですが、一つは、先ほどから事業所の方から説明がありましたように、順調に操業するというのが一つの非常に大きなファクターかと思えます。

もう一つは、何人かの人が掘り起こしとか営業活動とかいう話をされたんですね。これがおそらくこれから非常に重要になってくるんじゃないかなと思うんです。この見直しの段階で、新しく保有者を探す、あるいはそういう情宣活動をいかにやるかという、そういう改善とか見直しとかいうのはあったのでしょうか。

というのは、多分、北九州事業所では6,000トンの追加処理とか、あるいは最長9年間の延長というのは、この数値というのは何か根拠がある数値だと思うんです。ですから、そのところが非常にあいまいなかたちでご説明があったのですが、そのところを何か、要するに、今回の延長もそのところが問題であれば、そこをもっとシステムティックとか効果的な情宣活動、あるいは登録とか、それを受け入れる体制とか、そういうものを見直しというのをお聞きしたいのですが。

○環境省

まず、今回の処理計画の改訂にあたって、広域移動する量等については、当然ながらその時点でわかっている量が基本に置かれるのですが、それが単に廃棄物になっている量だけではなくて、これまでもいろんな

方からご指摘をいただきましたが、PCBの機器については今も使用中のものもございまして、これがいずれ廃棄物となった場合にそれは適切に無害化処理をしなければならない。それについては、一部については経済産業省が所管している中で把握している量もございまして、そういったものを勘案して、今回処理基本計画の見直しというものはさせていただきました。

一方で、いまだにそういった届出がなく、まだ見つかっていないような未処理の機器もあるということは、これまでも皆様方からも何度かご指摘をいただいております。これは全国的にどこでもやはり同じようなご指摘をいただいたところで、まさにそれを新たに掘り起こすという作業が今後必要だと考えております。

それをまさに今後取り組んでいくということを基本計画に位置づけたわけですが、例えば、今回北九州市からいただいた27項目の条件の中にもありますとおり、北九州市におかれては独自にそういった掘り起こされてない未処理の機器を掘り起こすような調査、作業をやっておりまして、そういったことをきちんとノウハウを生かして、全国的にもそういったことを展開すべきという条件は賜ったところでございます。

今回、計画ではそういった掘り起こしを今後やっていきますということまでは決めましたが、このあと必要なのは、それぞれがより具体的にどういう役割で、いつまでに何をやるのかというロードマップ的なものを用意する必要があると考えていまして、その作業を私どもの中では取り組んでいるところでございます。できればそういったものを年内早い段階でお示しして、今、委員がおっしゃった、システムティックに作業をすることで、より一層効果的にそういった掘り起こしが行われるような取組みを今後してまいりたいと考えているところでございます。進捗はあらためてまたこの機会などでご報告させていただきたいと思っております。

○委員

一言ちょっとご参考までに。私はこの前まで九州工業大学で勤めていまして、その後長崎に行ったのですが、九州工業大学ではもうずいぶん前からPCB処理の登録と回収をずいぶんやっていました。ところが長崎大学に行ったら、やっぱりちょっと温度が低いんですね。多分そういうところがずいぶんあるんじゃないかなと。同じ九州なんだけど、こういう事業所があるかどうかによってずいぶん違ってきます。これはご参考までに、こういうことがあったという私の感想でございまして、客観的な数値とかではありませんので。

○座長

今の話に関連して、いわゆる処理状況というのは、北九州処理施設では何%受入れという進捗状況をきちんととっているわけですね。モニタリングしているわけですね。他の施設ではそれはやられているのですか。どんな数字なんですか、実際には？そういう話があります。

○JESCO

JESCO の処理の進捗率、JESCO への登録台数に対してどれだけ処理が進んでいるのかということで、北九州事業所につきましては約 9 割の処理の進捗率になっているところです。他の事業所、豊田事業所、大阪事業所におきましては、トランスでおおむね豊田で言うと 66%ぐらい、大阪で言えば 69%ぐらいというのが本年 6 月末の数字になっております。また、コンデンサで申しますと、豊田で約 67%、大阪で約 71%となっております。

○座長

東京ではどうですか。

○JESCO

東京、北海道について申しますと、トランスについては東京が約 63%、北海道が 70%ぐらい、コンデンサにつきましては東京が 4 割、北海道が約 65%となっております。

○座長

そういう値を客観的に示されて、北九州市が延長して受入れをしなければいけないという合理性は説明できるのでしょうかという話なんです。うまくいっているような数字でもあるし、うまくいっていないような数字でもあると。その数字の意味をもう少しはっきりと示していただきたいんです。それはやはり重要なことだと思うんです。

東京ではトランスに限っていて、全体像に対しては実際には 70 なんていう数字ではないんじゃないかというのが我々の理解です。今言ったのはトランスだけですよね。トランス以外が処理できないと。だけど最初の事業所設定では、それぞれの地域で独立していろんな種類のものが 100%処理できるという設定だったはずなので、そこの説明なしにはなかなか…。

委員が指摘されたような、要するに、他のところの進捗率の悪さのしわ寄せが北九州に来ているのではないかと。それでも国全体から考えると処理せざるを得ないというのは北九州市の基本的な最終的な回答だったわけですから。やはりそのところをある程度はっきりとさせて先に進んだ方がいいのではないかと私は思うのですが、いかがなものでしょうか。

○JESCO

ちょっと数字だけを申し上げて誤解が生じたところもあるかもしれませんが、トランスの処理、コンデンサの処理とも各事業所ともおおむね事業所で毎年進捗率として 10%程度処理が進んでいるところがございます。今トランス、コンデンサともおおむね各事業所 6~7 割処理が進捗しているということで、北九州事業所でも大型トランス、平成 30 年度ぐらいまでかかるのではないかとということで見込んでおりますが、

他の事業所につきましても、普通のトランスにつきましてもはおおむね残り 30 数%ということで、あと平均的に搬入がなされれば 3~4 年程度で処理が終わるということで見込まれるところでございます。

ただ、車載トランス等につきましてもは、処理を行うにあたって困難な点があるということで、豊田事業地域の浜松の JR の工場に保管されている残り 600 台程度の車載トランスについて、豊田事業所だけではなかなか処理を早期に終わることは困難だということから、北九州、大阪、豊田事業所の力を結集して、一日でも早く処理を進めさせていただきたいということで、トランスの内でも車載トランスについて処理を分担してやっていきたいということで考えております。

また、コンデンサにつきましても、おおむね各事業所とも 7 割程度の処理の進捗率になっているところでございますが、東京事業につきましてもははまだ 4 割というかたちで、処理に一部遅れが生じているところでございます。東京事業地域につきましてもは工場等も多いということから、保管されている台数も他事業地域と比べて多い状況にございます。このコンデンサの処理につきましてもは全国一日でも早い処理を行えればということで、今回、東京の事業地域に保管されているコンデンサについて、北九州事業所を活用した処理を基本計画の中に位置づけさせていただいたということで私どもも考えているところでございます。

したがって、普通のトランス、コンデンサについては各事業所これまでの 10 年の処理の経験、それから工程改善を含めて、各事業所で責任を持ってしっかりやっていくということが基本的な考えで、私ども処理を進めてまいっておるところでございます。

○委員

資料 2-2 の 7 ページに発生量、保管量及び処分量の見込み、現状を今書いていますが、この日付が 24 年 3 月 31 日ですが、あらためてこの資料をつくられたんですね。なぜ 26 年 3 月 31 日ぐらいにはなっていないのか。要するに 24 年 3 月 31 日から 26 年 3 月 31 日まで数字が全く動いてないのかというのが一つの質問です。

それと使用中の数字をあらためて見まして結構愕然としているんですけども、結構な量ございますね、使用中が。届出されている高圧トランスを見ても 3 万台に比例して 9,000 台使用中というのはかなりの比率と思うのですが、私は前からずっと使用中にかなりこだわっていて、スタンスとして、この使用中がいつまでもある、特に 27 年に終わりますよと言っているのにまだ使用中だということ自体が、国が何を考えているのか。処理に対して相当甘い考え方をなさっているんじゃないかという、うがった見方までしている立場なので、ぜひそこら辺の説明、まず数字の説明となぜいつまでも使用中がこんなにあるのかの説明をお願いいたします。

○環境省

まず、この届出の実績を取りまとめている数字ですが、こちらは事業

者から報告をいただくタイミングが24年3月31日であれば翌年度にご報告をいただくようなかたちになっていて、我々が取りまとめている段階が、どうしてもその後さらに各自治体からそれを回収して全体的な取りまとめをさせていただきますので、そういった時間のタイムラグがございまして、この計画を策定する時点で最新の統計が実はこの24年3月31日現在の届け出状況でしたので、それを掲載させていただいております。ですから取りまとめまで、報告と取りまとめのタイミングでお時間をちょうだいしている結果、統計的なものを公表するまでのタイミングに若干時間を要するところが実情としてございます。

それから、使用中につきましてはおっしゃるとおりでございます。まず、7ページにありますこの表ですが、次に8ページに注意書きが書いてありまして、この届出の報告の台数自体はJESCOで処理すべき高濃度のPCB廃棄物に加えて、民間企業、環境大臣の認定とか都道府県知事の許可を得て処理を行う、いわゆる微量PCB廃電気機器等、こういったものがこれまで混ざって報告をされていて、こちらはその両方の数字が実は合計されて入っております。

おっしゃるとおり、今後そのこと考えた場合に、それぞれ処理をする対象に分けて数を数えられるようにならないといけないということがございまして、こちらは今年2月に様式を改正させていただきまして、これから出てくる報告につきましては、いわゆる高濃度というものとそれ以外のものというものを分けて届出の報告がなされてくることとなりますので、今後につきましては、分けた上での集計が可能になってくるものと考えておりますが、これはもう少しお時間をいただく必要があります。

それと、使用中については、おっしゃるとおり、先ほど私も申し上げましたが、いずれ使用中のものが使用を終えると廃棄物になって、これはPCBを無害化しなければならないということになります。残念ながらこれまで使用中についてはまだ廃棄物になっていないという部分で、なかなか廃棄物行政の方からアプローチはできない部分もあったのですが、今回の処理基本計画の中では、私、先ほど経済産業省と直接申し上げたと思いますけども、使用中の機器の届出を受理する官庁でもありません経済産業省ともしっかり連携をして、使用中の段階から未処理のPCBの機器というものをしっかり行政側で捕捉をさせていただいて、そちらがいつまでに廃棄して処理をするつもりなのかというところからお声がけをするような取組みをさせていただきたいと考えているところでございます。

○座長

今の回答というのはあいまいな回答であって、いつから高濃度と高濃度じゃないPCBの廃棄物は区別されて環境省は取り扱ってらっしゃいますか。

○環境省

26年2月に届出を改正しましたので、今年6月から事業所から自治体に上がってくる報告からは、低濃度、高濃度と分かれてきます。

○座長

そうすると、届出と処理に関してはずっと乖離していたということですか、環境省の監督の行政は？それをちょっと知りたいのですが、届出が区別する届出制になったと人ごとのようにおっしゃいますけど、我々は高濃度のPCBの処理に関して、どれだけの量を処理しなければいけないかということに関して議論しているのであって、その資料が適切に出されてないということに異議を唱えられているわけですよ。それに対してちゃんと答えていただかないと話がおかしくなりますよ。速やかに是正するという表現であればいいんですけども、今まではそれを区別しないで包括して統計処理していたということですか、環境省は？

○環境省

届出情報としては、今申し上げたそういった問題があるということのご指摘が過去からもあって、今般ようやくと言っていかもしれません、そこは申し訳ございませんが、様式を改正しましたが、今般、その処理計画の改訂にあたっては、先ほどご質問にもお答えしましたとおり、使用中について電気事業法の中での届出というものもありまして、そこで把握されているデータも勘案して、今回、推計作業をした上で処理計画の改訂をさせていただいておりますので、単にこの届出で出てきた廃棄物のみを推計しているのではなくて、使用中で把握できる部分ももちろん勘案した上で、今回検討した結果、こういった処理基本計画の改訂をさせていただいたというところでございます。

○座長

いや、計画書に書いてある高濃度の処理量の見込量をなぜ訂正されないのですかということなんです。24年度の統計の届出の値のままで基本計画を改訂されたということはおかしいんじゃないですかと言われている。

○環境省

8ページの真ん中から下の表がありますが、こちらが今後処理する見込みとなります量を、表で平成24年度までの処理量と平成25年度以降のトランス、コンデンサの量、こちらは高濃度、JESCOで処理する量を書いておりまして、こちらを推計させていただいたというのが、その届出情報の他に使用中の情報等も踏まえて推計をさせていただいたところでございます。こちらを今後処理する対象の見込量とした上で、今般処理計画を改めさせていただいたということでございます。

○座長

何度も言いますけれども、ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画は低濃度も含んでいるんですか、含んでないのですか。

○環境省

低濃度も含んでいます。

○座長

含んでますよね。それでここで議論をしているのは、高濃度の処理見込量を議論してますので、もしこの会議に提出される資料であれば、それに限って、混乱を招かないような資料を出していただきたいということの要望だと思います。いいですか。

○環境省

はい。ですので、まず届出の統計につきましては、今後そこはしっかり分けられるデータにしたいと思いますが、少なくとも処理計画、8ページの第2節から書いている今後の処理対象量につきましては、高濃度と微量は分けて数字を記載させていただいております。

○委員

それともう一ついいですか。この現場の事業所の方々は本当に直前まで調べてその直前の数字を全部私たちに上げてくださっているんですね。ですから国の方も下から上がって来て1年経って、その次今度は国まで上がって来たら2年経ちましたという体制で今後なされるのはいかがなものかと思います。ぜひ、早く数字を上げるルートをつくりさえすれば何とかなるのではないのでしょうか。

○委員

資料2-1「PCB廃棄物処理の見直しに関する国の要請受入れ」の2ページの本市が提示した受入条件（概要）、3ページの3.地域の理解というところがあります。その(5)「本市の環境未来都市としての取組みがさらに発展・展開するよう密接な連携を図ること」とあります。私は、環境未来都市とは、平成22年に閣議決定された新成長戦略に掲げられました国家戦略プロジェクトの一つと理解しております。いかに新成長戦略を実行するかが問われると思いますが、この5番目の文章について、例えばどんなことかわかりやすく説明をしていただいたらと思います。お願いいたします。

○北九州市

こちらの条件を提示した市の方からご回答申し上げます。ここに書いてあります環境未来都市といった取組みをさらに進めていくべきであると、この点につきましては、市民の皆さんからご意見をいただく中で、若松を中心に北九州市としてさまざまな環境施策を進めております。こ

ういった取組みをもっと積極的に評価をして、これを進めていくべき、こういったご意見もあったことを踏まえてのものとなっております。そういった内容としましては、今、委員の方からお話があったようなところ、新成長戦略しかりでございますし、北九州市が環境のまちとして取り組んでいる施策を広く含んでいるものと考えております。それはエネルギーの問題しかり、今問題になっている PM2.5、こういった取組み、さまざまな問題があろうと考えております。こういった中で、市が進めていく施策について国とも連携をしっかりと進めていく。それを国の方に求めていきたいといったことでございますので、これを具体化すべく市としても積極的に進めていきたいと考えております。

○座長

今の質問に関連して、非常に重大な点を指摘したいと思います。市が提示した受入条件がありますね。これに対して、これを全部環境省側は受け入れるとして回答していますよね。その受け入れるということの回答内容がいつ検討されて、この受入条件がいつ検討されて、いつ環境大臣が受け入れるという回答をされたのですか。この説明の中には出てないんですよね。市の回答は4月23日ですかね。それ以降いつどの場でどのような、受け入れるという言葉だけじゃだめで、具体的な国としての受入条件に対する施策の案を示されてるんですかどうですかというのが私の疑問なのですが。先ほどの委員の質問の回答にもなるんですけども。

○環境省

まず4月23日に北九州市長が環境省にご来庁いただいて、その際に受入条件についてご提示をいただいたところですが、その場で石原環境大臣の方から即答で、すべて条件を承諾しますとお答えさせていただきまして、その場で回答書も交付させていただいたところでございます。

おっしゃるとおり、受入条件の内容にしては、まず基本計画として各部分については盛り込んだ上で、特に個別具体的な取組みの中身まで細かくなっているところにつきましては、引き続き北九州市とご相談しながら適宜対応をしていきたいと考えております。

○座長

それは大臣が受け入れると決めたら大臣から下に対して指示が当然なされているはずですよ。それに対して担当部局は対応されたのですかどうですかという質問なんです、単純に言うと。

○環境省

まず申し上げますと、この4月にこの受入条件をいただいた上で、この条件を履行するために国全体として行う取組みについては、今回6月に改訂をさせていただいた処理基本計画の中に盛り込んだ上で、それを実現するかたちで対応していくことになろうと考えております。さら

に、そのうちの今回個別具体的なところで申し上げますと、処理料金の能力のない方への支援とか、あるいは処理の安全性確保のために個別にJESCOが行う取組みについて、我々の指導監督の下、取り組ませていただいた部分を今日ご説明をさせていただいたというところでございます。今後、それ以外にまだ取り組んでいない部分につきましては、随時取組み状況をまたご報告させていただきたいと考えております。

○座長

普通はこういうものはある対応があった場合に、受入条件があった場合に、その対応という対応表、要するに国の具体的にどういう施策を、それから基本計画にどのように反映させたかという個別対応表というものを提出されるのが通常なんです。こんな大まかな処理計画の変更というものの説明だけに終わらせるような会議じゃないんですよ。ブレイクダウンしたような会議をして、市民の方に理解を深めるという場ですから、ぜひとも具体的な、この受入条件に対してはこのように今動いています、まだ動いていませんでもいいですけど、いついつまでに対応しますというような資料がぜひとも必要なんです。この会議の後でもいいですから、できるだけ速やかにそういうものを提示していただきたいというのが我々の要望です。

○委員

それに関係するのですが、今の話ですと、4月23日に市長が大臣にお会いして条件を提示したら、その場で大臣がすべての条件を承諾したので市長が要請を受け入れると表明したと。それに基づいて6月6日に処理の基本計画が告示されたということでもいいと思うのですが、同じような要請が他の自治体にも出されて、他の自治体もその要請を受け入れたということだと思います。その際、他の自治体からそういう条件というのは提示されたのでしょうか。

○環境省

おっしゃるとおりの経過でございまして、他の地域からもいろいろと条件についてはいただいておりますが、端的に申しますと、皆さんやはり処理期間が延長することに対する施設の安全性の確保と処理期間の再延長は絶対にしないよう、あるいは期間を一日でも早く前倒して処理を終えるような取組みをしてほしいというところが言われておりまして、実はそれを全国的にどういったご意見をいただいたかということについては、私どもの方でお作りして配った資料2-2の先ほど都道府県に通知を出したというところで申し上げましたが、25ページに地元地方公共団体からいただいた条件で、特に都道府県市にも取組みをしていただかなければならないものだけ抜粋しています。そういったものについては、こちらで一部掲載をさせていただきました。他の地域からも、条件はおおむね私が申し上げたような観点での条件をいただいているところがございます。それに対して、我々も承諾をした上できちんと対応

させていただくということでございます。

○委員

その告示に基づいて JESCO で処理事業基本計画を変更したというのがこの別添資料ということですが、長期保全計画はまだこれから作成するということでしょうか。先ほどの資料に示されているのはその概要になるようなものということでしょうか。

○JESCO

これまで北九州事業所で保全のかたちでやって来たのですが、長期的に今後9年の間にどうやっていくかというのを、今から、北九州事業所だけの話ではなくなっていますので、全体、全事業所も含めて長期的にこういう考え方でやっていこうということで、基本的には今回は考え方をまず具体的にご説明をさせていただいたと。それと今年度実際にもう取り組もうとする事例を一部挙げさせていただいたということです。

○委員

今年度、26年度の1期施設、2期施設の点検等の説明がございましたけれども、これはこの北九州市の施設ということでしょうか。

○JESCO

そうです、はい。

○委員

先ほどから PCB の処理の見直しの件につきまして国、並びに市、それから JESCO の方から縷々説明がございました。まず、国と JESCO さんの方に、これは要望でございます。お願いしたいのが、国は、いかなることがあっても期間の延長は二度とないですよということを我々区民としましても絶対それは守ってほしいと思います。それをしかと心して、国側の方にお帰り願いたいと思います。

それと JESCO の方なのですが、会議の折に触れて申しておりますが、ここでいろんなことを論じてこの空気が果たして現場にどういうかたちで伝達されているのか、ちょっと私、疑問に思います。そこで、いかなることがあっても、常に現場は危機感を持って、しかも現場と常に連絡をとれるというか、密に連絡をとっていただいて、本当に今計画はずっと上がってきておりますが、絵に描いたぼた餅にならないような状態になって、最後、無事故で処理が終了するように我々区民としてはお願いを、他に何もございません。お願いしておきます。

○座長

一つ質問ですが、今度は絶対に期限を守るという方策というか意気込みはわかるのですが、具体的に今回の事態になったのは、やはり進捗状況のコントロールが悪かったのだと思うんです、全体としての。ですか

ら、今度は絶対守れるような工程表をもって、工程管理をしてほしいんです。計画管理というか。世の中でいろんな事業に関してやられていることですので、この環境行政に関しても、きちんと工程管理、スケジュール管理をしていただきたいということと、それに関しては、必ず基本となるデータ、受入れ見込数とかそういうデータをもって、何%進捗したかと。このスピードでやったら期限を守れないとか、そんなのは途中で明白になりますから。そういうきちんとしたかたちで延長する場合にはしていただきたいということです。それが確実な方法だと思います。

○委員

もうちょっと全体的というか、トラブル事象について、いいですか。

○座長

どうぞ。

○委員

当然ここに他の事業所の方がいらっしゃるわけではないのであれですけれども、一応、横の連携をちゃんとしているということなので、お伺いしたいのです。北海道事業所のトラブルがこここのところ続いています。前から東京がかなり続いていて、今回、豊田が、あら、あまりないのかなと思ったのですが、それは豊田がとても今いい方向に回っているのかというのを伺いたい。あと、北海道がかなり負のスパイラルに入ってきているみたいなので、何か原因があるのか、ちょっとお尋ねしたいんですけれども、わかりますでしょうか。

○座長

今の質問に関して、どなたか。

○JESCO

本社の環境安全事務局を担当しております吉崎と申します。豊田につきましては、過去何度かトラブルがございまして、市の指導のもとでしっかりと改善計画を策定して、本社も全面的にバックアップしながら、トラブルの撲滅に向けて取り組んでいるところです。最近のトラブルの減少につきましては、そういった取り組みの効果が着実に出てくるのかなと思います。東京等のトラブル事象が最近増えてきているのではないかとこのご指摘について、傾向についての原因について、直ちに回答を持ち合わせておりませんが、しっかりとそれぞれの事象について対応策は検討して講じていただいております。さらにそれを水平展開というかたちで、先ほど説明もございましたが、他の事業所での対応も図っているところがございますので、こういった事象が今後生じないように、さらに取り組みを進めてまいりたいと考えております。

○委員

ついでにちょっとお伺いしたいんですけど、豊田が増設しましたよね、ラインを。今、順調に動いているんでしょうか。

○JESCO

豊田につきましては、これまでなかなか処理できなかったコンデンサについて処理ができるように、昨年度改造を行いまして、2月に試運転などを行って、今順調に処理を開始したところでございます。こういうことで、豊田はこれまで一部処理が困難なものもございましたが、しっかり豊田地域のものを処理できるという体制ができているということでございます。

○座長

北海道も多くなっているというのは立ち上げ時期だからですか。北海道の施設はいつ立ち上がって、何年ですか。

○JESCO

北海道の増設につきましては9月の半ばから処理を開始してということで、今回件数の一覧の中では増設施設ということで表記のある2件ですので、増設施設について特に今増えているというような状況ではございません。まだ立ち上げというところで、しっかり安全に処理をしようということで進めてございます。一部、初期、まだ立ち上げ時ということでトラブル等が起こっているところはございますが、しっかり進めようとしているところでございます。

○座長

トラブルというのは立ち上げ時期と慣れた時期と2種類、周期的に起こるんですけども、北海道はいつ事業が立ち上がったんですってっけ？

○JESCO

増設施設は昨年9月です。

○座長

いやいや、増設じゃなくて、北海道の事業自身は開始して5年ぐらいですか。5年ぐらいにはならないですかね。

○JESCO

それぐらいになります。

○座長

そうすると慣れから来ている可能性があるのですが、そういうのは周期的にきちんと訓練というのをやっていただきたい。人的要因が半分ぐらいありますから、よろしくお願いします。

他にはありますか。それぞれきつい議論になりましたけれども、今日は議題2に関してはいったん終了とさせていただきます。予定した議題は、その他として、この監視会議自身の設置要綱についてということがございますが、それは事務局からの説明をもって代えさせていただきますと思いますので、議事自身はここでいったん終了します。では、議事を事務局にお返しします。

○事務局

浅岡座長、委員の皆様、長時間のご議論、活発なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。資料3としてお付けしていた設置要綱の改正の件ですが、すでに個別にお話しさせていただいている内容です。委嘱の期間を原則2年にさせていただきますが、場合によっては短縮することができます。今回の見直しのタイミングを受けたものということでご理解をいただければと考えてございます。

本日いただいたご意見につきましては、市の監視会議ですので、今後の市の監視、指導にしっかりと生かしてまいりたいと考えています。また、監視会議そのものの運営にもいろいろご意見をいただいたと理解しておりますので、そういったところも含めて、しっかり対応させていただきたいと思います。

次回の開催時期につきましては、種々の状況を勘案して、また座長とも相談しながら、委員の皆様と相談した上で決めていきたいと考えてございます。

最後に1点、本日のご議論でもあったように、これまでこの監視会議というのは、いわゆる安全操業、この点を監視いただく会議でした。今回の議題2にあったような、処理の見直しといったところは実は安全操業のみならず、計画的に処理をする、または地元地域にしっかり理解をしてもらう、こういった点も含まれているものです。こういったところに対しても、冒頭申し上げたように、市としてこういった監視機能を強化していくといったことも考えているところでございますので、この監視会議の監視事項、また監視体制についても市として強化する方向で見直しを今後行っていきたいと考えています。その点につきましては、関係の皆様とよくよくご相談させていただきながら進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

それでは以上をもちまして、第32回北九州市PCB処理監視会議を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。

〔終了〕